

災害時の防災情報ガイド

● 情報の収集方法

災害時に必要となる情報は、その災害の種類に応じて様々なものがあります。テレビやラジオで放送される災害に関する一般的な情報を確認するほか、次のようなツールを使って、いち早く情報を入手しましょう。

ホームページ

災害時の緊急情報や、日頃の備えである自助・共助・公助の取組について掲載しています。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/>



メール

■■ 横浜市防災情報Eメール

パソコンや携帯電話から事前に登録いただいた方に、地震、津波、気象警報・注意報、河川水位、緊急なお知らせなどを送信します。右記QRコードや下記メールアドレスへ空メールを送信してください。登録案内メールが届きます。(横浜市防災情報Eメール: entry-yokohama@bousai-mail.jp)



■■ 緊急速報メール

横浜市内のエリアにある携帯電話(NTTドコモ、KDDI(au)、ソフトバンクモバイル、ワイモバイル、楽天モバイル)に対し、横浜市の災害情報や避難情報などを配信します。

こちらは、登録が不要です。

アプリ

■■ Yahoo! 防災速報

スマートフォンから利用できる「アプリ版」を右記QRコードからダウンロードするか、パソコンや従来型の携帯電話から利用できる「メール版」に登録することで、横浜市からの防災緊急情報を受信できます。

(Yahoo!防災速報: <https://emg.yahoo.co.jp>)



ツイッター

■■ 横浜市総務局危機管理室の公式アカウント

市内で広域的な災害が予測される場合の避難等に関する情報や、災害対策本部体制下における災害等に関する情報、特別警報、警報、一部の注意報の発令解除情報を発信します。

アカウント: [yokohama_saigai](#) URL: https://twitter.com/yokohama_saigai

防災スピーカー

区役所や地域防災拠点である小中学校などにJアラートの緊急情報などを放送する「防災スピーカー」の設置を進めており、令和元年度から3年度までの間に計190か所の整備を予定しています。また、既に沿岸部に設置している津波警報伝達システムの屋外スピーカーからは、新たに設置する防災スピーカーと同様に、Jアラートの緊急情報などを放送します。

● 情報の種類と内容

災害時に発信される代表的な情報について、災害の種別ごとにまとめています。情報の概要とともに、その時取る行動について学びましょう。

■■ 地震に関する情報

種 類	概 要	市民等の行動など
緊急地震速報	震度 5 弱以上の揺れが予想されるときに、震度 4 以上の揺れが予想される地域に対して発表されます。 ※緊急地震速報が、強い揺れの到達に間に合わない場合があります。	・頭を保護しながら丈夫な机の下などに隠れる。扉を開けて避難路を確保する。 ・屋外にいる場合、あわてずに施設係員の指示に従う。 ・その場で頭を保護し、揺れに備えて安全な姿勢をとる。吊り下がっている照明などの下から待避する。 ・エレベーターにいる場合、最寄りの階で停止させて、すぐに降りる。 ・ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れる。ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる。 ・落石や崖崩れに注意し、できるだけ危険な場所から離れる。
震度速報	地震発生約 1 分半後に、震度 3 以上を観測した地域名と地震の揺れの検知時刻が発表されます。	・被害状況、交通情報、家族の安否などの情報を収集する。 ・駅や繁華街は混乱する可能性があるため、職場や学校など安全な場所にとどまり、時間をずらして帰宅する。
震源に関する情報	震度 3 以上の地震が発生した場合、震源（地震の発生場所）や地震の規模（マグニチュード）が発表されます。	

津波に関する情報

気象庁は、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約 3 分以内を目標に津波警報等を発表します。

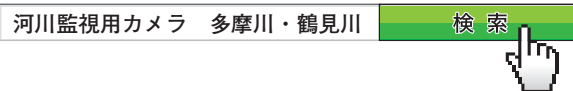
種 類		概 要	市民等の行動など	発表される津波の高さ	
				数値 表現	定性的 表現
特別 警報	大津波警報	大きな津波が襲い甚大な被害が発生します。 【発表基準】 予想される津波の高さが高いところで 3m を超える場合	沿岸部や川沿いにいる人はただちに高台や津波避難施設など安全な場所へ避難する。 警報が解除されるまで安全な場所から離れない。	10m 超 10m 5m	巨大
警報	津波警報	津波による被害が発生します。 【発表基準】 予想される津波の高さが高いところで 1m を超え、3m 以下の場合	沿岸部や川沿いにいる人はただちに高台や津波避難施設など安全な場所へ避難する。 警報が解除されるまで安全な場所から離れない。	3m	高い
注意報	津波注意報	海の中や海岸付近は危険です。潮の流れが速い状態が続きます。 【発表基準】 予想される津波の高さが高いところで 0.2m 以上、1m 以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合	海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。 注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしないようにする。	1m	—

河川に関する情報

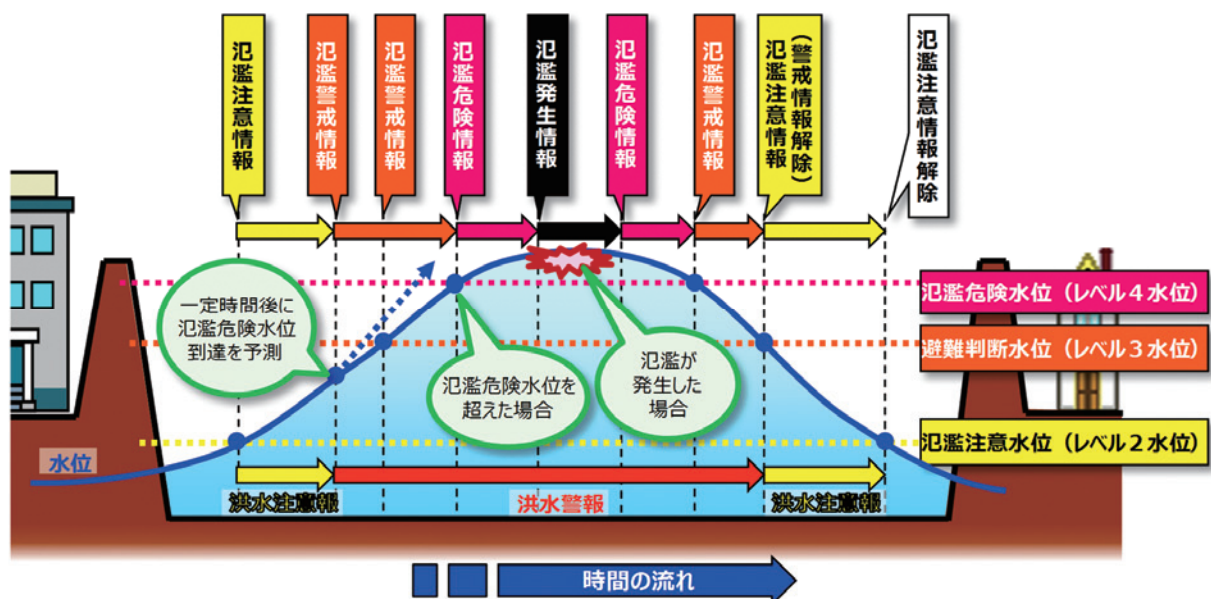
●洪水予報

流域面積が大きく、洪水により大きな損害を生じるおそれがある河川について、洪水予報を行います。横浜市域に影響を及ぼすものとしては、鶴見川及び多摩川が該当します（洪水予報河川）。

国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所のホームページで、河川監視用カメラ映像を閲覧できます。



種 類	概 要	市民等の行動など
〇〇川氾濫発生情報 (洪水警報)	災害がすでに発生していることを示す警戒レベル 5 に相当します。	命を守るための最善の行動をとる。
〇〇川氾濫危険情報 (洪水警報)	自治体が避難勧告を発令する目安となる情報です。避難が必要とされる警戒レベル 4 に相当します。	避難勧告の発令に留意するとともに、避難勧告が発令されていなくても自ら避難の判断をする。
〇〇川氾濫警戒情報 (洪水警報)	自治体が避難準備・高齢者等避難開始を発令する目安となる情報です。高齢者等の避難が必要とされる警戒レベル 3 に相当します。	災害が想定されている区域等では、避難準備・高齢者等避難開始の発令に留意するとともに、高齢者等の方は自ら避難の判断をする。
〇〇川氾濫注意情報 (洪水注意報)	避難行動の確認が必要とされる警戒レベル 2 に相当します。	ハザードマップ等により、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認する。



出典：国土交通省の HP より引用

● 水位情報

「洪水予報河川」以外の河川で、洪水により重大な損害が生じるおそれがあるが、流域面積が小さく洪水予報を行う時間的余裕がない河川について、河川を管理する国・県は、避難判断水位を上回ったときに氾濫警戒情報を発表します。

横浜市域では、矢上川、早淵川、帷子川、今井川、宇田川、境川などが該当します（水位周知河川）。

横浜市ホームページ「水防災情報のページ」（道路局河川水位・遊水地情報）では、市内の河川水位観測所の水位情報や監視カメラによる河川の画像情報を公開しています。

横浜市 水防災情報のページ

検 索



■ 気象に関する情報

種 類	概 要	市民等の行動など
土砂災害警戒情報	大雨警報（土砂災害）が発表されている状況で、大雨による土砂災害発生の危険度が更に高まったときに発表される情報です。	・ テレビ、ラジオ、ホームページで情報を収集する。 ・ 周囲の状況や雨の降り方に注意する。 ・ 警戒対象区域の住民は、早めの避難を心がけるとともに、避難勧告等の情報にも注意する。
記録的短時間大雨情報	数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を記録したときに発表されます。現在の降雨がその地域にとって希な激しい状況であることを意味しています。	・ テレビ、ラジオ、気象庁ホームページ、横浜市防災情報等で情報を収集する。
竜巻注意情報	積乱雲の下で発生する竜巻、ダウンバースト等による激しい突風が発生しやすい気象状況になったと判断された場合に発表されます。	・ 空の変化に注意する。 ・ 竜巻発生確度ナウキャストや気象レーダー画像にアクセスできる環境であれば、自分が今いる場所の状況についてこまめに確認する。